

社会福祉法人 あいのわ福祉会

あかしあ

AKASHIA

- 発行者 社会福祉法人あいのわ福祉会 理事長 岸本美恵子
- 連絡先 〒121-0012 東京都足立区青井4-30-5
電話 03(3849)1188
FAX 03(3849)7001
- 印刷足立区大谷田就労支援センター
法人ニュース「あかしあ」隔月25日発行



「あいのわ感謝のつどい」開催

去る7月11日(土)に、第1回「あいのわ感謝のつどい」が、主催「あいのわ福祉会後援会」、後援「足立区」・「足立区肢体不自由児者父母の会」、ほか多数の協賛をいただき開催されました。会場の足立区庁舎大ホールには、日頃、お世話になっていた地域の方々をはじめ、利用者・家族ほか約460名に参加いただき、足立ケーブルテレビの堀江アナウンサーの進行のもと、盛大に催されました。最初の開会セレモニーでは「あいのわ福祉会後援会」秋山会長、「あいのわ福祉会」岸本理事長、「足立区肢体不自由児者父母の会」丸山会長の挨拶の後、多数の来賓を代表して「足立区」近藤区長より暖かく力強い励ましのご挨拶をいただきました。

そして、いよいよ青井中学校35名の吹奏楽部の皆さんの登場です。楽器パートの紹介はそれぞれの人柄も感じられて会場が和みました。最初の演奏曲「アルヴァマー序曲」は、美しい音色と厳かなブラスバンドの響きが会場を圧倒するように包み込みました。アンコール曲の「ひよっこりひょうたん島」では、4人の女子生徒が舞台へ上がり演奏に合わせて踊りも披露するなど、懐かしく軽快なサウンドで会場を大いに沸かせてくれました。

長門小学校3年生から6年生の70名によるコーラスは、「ふるさと」を3年生から学年順に6年生までソロで歌い継いで、透明感ある天使のような歌声に、一瞬にして会場全体がのみ込まれてしまいました。その後も「やさしい風」、そして会場からの手拍子で盛り上がった「今日から明日へ」を歌っていただきました。会場の中にはそとと目頭を押さえる方もおり、こころにしみいるきれいな歌声がとても印象的でした。

大同吟詠会岳秋支部立石教場の4人の演者による詩吟は、先人たちの喜びや悲しみ、そして美しさを表現した詩歌を独吟、連吟、合吟で会場いっばいに披露していただきました。事前に配布された詩文プリントを見ながら、一緒に口ずさむ姿があらこちらに見受けられました。

そして、とりには、秋田県に本拠地のある劇団わらび座5人で結成される「響」が出演し、太鼓、尺八、三味線、琴、鼓などの和楽器、南米のケーナ(縦笛)を加えての演奏や踊り、手話の歌などを次々と舞台狭しと繰り広げました。琵琶湖に伝わるお囃子や勇壮な三宅島太鼓、岩手県に伝わる虎舞は会場に虎が飛び込んできてみんなびっくりの様子!会場からの「どっこいしょ!どっこいしょ!」の大合唱の掛け声と手拍子に合わせた歯切れのよいソーラン節の歌と踊りなど。伝統芸能を存分に堪能しました。会場内では、懐かしい童謡やアニメソングなどに合わせて体をゆらす車椅子の人や椅子から立ち上がって踊りだす人、じつと聞き入っている人、親子での睦ましい姿など思い思いに楽しんでる風景が見られました。

オリジナル曲「イフ ユー ウィッシュ」は、はじめに手話を会場のみなさんと練習してから「♪本当の気持ち♪信じていこう♪本当の自分♪勇気を出して：♪」とみんなが手話を交えながら、会場全体での大合唱となり、とても感動的でした。

舞台と会場のみんなが本当に一体化した1時間でした。

興奮が覚めやらぬ中、「あいのわをみんなの力でもっとと広くしていきたい」との、「あいのわ福祉会」鈴島副理事長の閉会の挨拶を受けて、会場の全員であいのわを大きく手で作り、なごりを惜しみつつお別れしました。

足立区庁舎14階の展望レストラン「ピガール」にて行われた第二部の懇親会は、日頃からお世話になっている地域・企業・学校・福祉関係の方々など約160名が会して、歓談し交流を深めました。合い間には、法人内の6施設のそれぞれの特徴・日頃の活動等のスライドでの紹介もあり、出席者に好評でした。あつという間の1時間半に感じられた懇親会でした。

あいのわ福祉会が、地域の幅広い多くの方々から支えられ、共に歩んできた道のりをあらためて実感し、子供も高齢者も障害のある人もそうでない人も、誰もが住みやすい活き活きした地域づくりを広げていかなければと強く感じた「あいのわ感謝のつどい」でした。

皆様、本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願い申し上げます。



青井中吹奏楽部



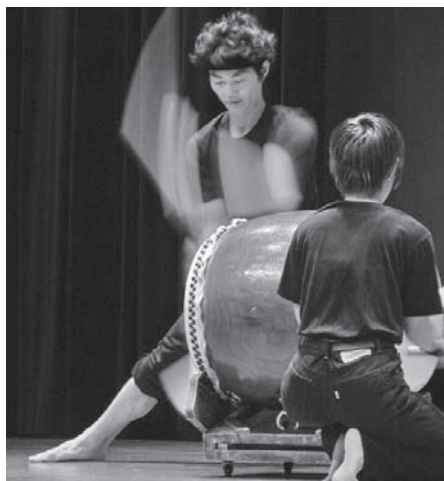
ご来賓の方々



秋山後援会長



第二部懇親会



わらび座「響」の熱演



長門小のコーラス



足立あかしあ園だより

梅雨もあけましたが、足立あかしあ園では皆さん元気に、作業・活動にと頑張っています。

さて、去る5月28日、29日にはBグループが今年度の旅行の先陣を切って千葉・横浜方面へ宿泊に出かけました。



1日目は大盛り上がりのカラオケ大会で楽しみ、それぞれお土産を見たり、ボランティアさんと話したりと思いいいに過ごし、2日目はフェリー組と海ほたる組に別れて横須賀のソレイユの丘で合流、美味しいマグロカツ丼をおなかいっぱい食べ、その後全員でアロマ石鹸作りに挑戦しました。

また、先日7月19日には、恒例となりました「昼食バイキング」を、テーマ「和」で行いました。煮物や焼き魚、豚汁、山菜おこわ、太巻きなど厨房渾身の沢山のメニューに、皆さん大喜びでした。

ところで例年、この時期はいつも園祭へのスタートを切っている頃ですが、今年度は7月1日から大がかりな改修工事が入るため、残念ながら行え

ません。来年度は新しくなった足立あかしあ園を皆様にご覧いただきたいと思ひます。ご期待ください。

綾瀬あかしあ園だより

この季節、お天気のいい日は、近くの菖蒲沼公園の菖蒲を見に幾度となく散歩に出かけます。きれいに咲く皆さんの種類の菖蒲は、毎年の皆の楽しみになっています。

この菖蒲をもじって、「いざ菖蒲(勝負)春の風船バレーボールまつりを開催しました。各グループ混成の4チームが大きな風船を使って戦いました。「負けないわよ」と日頃はお上品な「お嬢様たち」も闘志むき出しにしての熱戦が繰り広げられました。ホイッスルの大きな音で審判から厳しくファールをとられたり、お笑いプレーが飛び出したり、優勝チームでも終始すやすやとお昼寝の選手もあり、チームメイトに大声で気合いを入れたらりと大笑いの楽しい1日となりました。



7月25日(土)は綾瀬いしよ祭りを開催いたします。

今年は、「結心」く心でつなぐ笑顔

の輪というテーマです。皆さんの笑顔で心と心を繋ぎたいという思いからテーマを決めました。模擬店やバザー、他施設の出店、銀座並木通り合唱団や十三中プラスバンド、大道芸人さんも来てくださいます。盛り上げりの報告は次号になります。

竹の塚あかしあの杜きずな(生活介護入所)だより

もっとも大きなイベントの1つである『杜祭』が、6月14日、ついに開催となりました。

天気が心配されましたが、予報もハズレ梅雨時の貴重な晴れ間の、快適な陽気になりました。

2年振りの開催ということもあり、実行委員をはじめ皆一丸となり、いかに楽しく祭を盛り上げるかを考えながら、準備にも大変力が入りました。

当日職員は緑地に『杜祭』のロゴ入りTシャツを着用してのスタートとなりました。ボランティアの方々も大勢集まっていた、準備万端です。

模擬店では杜祭井、焼きそば、冷やしうどん、焼き鳥、フランクフルトなど、大盛況で早々と売り切れになるものも多数ありました。

きずなメンバーは、作業で作成した製品を売る班と、きずなプレゼンツとして出店した「キャラメルポップコーン」を売る班に分かれ、店頭で接客

をしました。各担当になった利用者の方も、接客をする中で、普段とは違った表情が見られました。知り合

いの方に声をかけられたり、地域の方々も多く来てくださり、接客にも一層力がこもりました。



数多くの皆様のご協力にも支えられ、2009年の『杜祭』は大盛況の内に終了することができました。

今後夏に向けても、様々なイベント・行事が続きます。『杜祭』での経験なども活かし、より一層わくわくできる「きずな」を目指していきます。

竹の塚あかしあの杜のぞみ(生活介護通所)だより

6月25日に防災訓練がありました。今回は起震車の「震太くん」を呼び、関東大震災レベルの揺れを体験しました。

徐々に揺れが大きくなったかと思うと、一旦緩まり、再び激しくなり、また弱くなり…を繰り返し、1分48秒という実際にあった地震の再現でした。体験前のイメージでは激しい揺れがずっと続くのだと思っていたので驚きました。

今回は訓練ということで心に余裕を

持つて臨むことができたが、もし実際に震度 7 レベルの地震が来たら：机の下にもぐって身を守るという行動が取れるのだろうか、揺れを感じながら思いました。

「みんな、車椅子からおりて、とにかく机の下にもぐるように」と係の人に言われましたが、利用者からは「そんなの無理だよ」「机に行き着く前に潰れちゃうよ」等々率直な感想。それもそうだなあ。

自宅で大地震が起こった時のことをもつと真剣に考えておかなければならないなあと感じた、貴重な体験でした。



大谷田就労支援センター 大谷田ホームだより

晴れ間にのぞく太陽は、もう夏の陽ざしです。暑い季節がやってきました。暑さに負けず健康に気をつけ頑張っていきたいと思います。

世間では不況の波が押し寄せ、大変な状況になっています。大谷田就労支援センターでも、その影響を受け仕事の量が少しずつ減ってきています。そんな不況の中、負けずと何か良い仕事は無いものか考え、新しい事業の取り組みを始めました。障害者による地域

緑化推進を目指してのガザニアの花の販売、島原の手延べそうめん・日本ハムのお中元の委託販売を始めました。

ガザニアの花では、道路の中央分離帯や路側帯、海岸線、公園等の緑化により CO2 の削減を目指しています。大谷田就労支援センターの花壇にもガザニアの花を植え、成長を楽しみにしています。



ついでにもう 1 つ宣伝を！少し早めですが、全国の特産品を集めたお歳暮商品販売事業の準備を進めています。北海道から沖縄までの、全国の仲間の施設の商品を幅広く集めてご紹介します。

今年も暑さや不況に負けずみんなで乗り切っていきたいと思います。

神明福祉園だより

梅雨の季節は終わりましたが、毎日「明日は雨かな、晴れるかな」と空を見つめながら活動を考えている今日この頃です。さて神明福祉園では、5月に「ファミリーレクリエーション」を実施しました。家族の方と一緒に体を動かし、走り踊ったり、応援したり楽しめました。場所は地域の体育

館「佐野センター」を利用しています。ボラン

ティアは「N A K A M A」の会から、神明南町会女性部の方がお昼に「東京音頭」など踊りを一緒に踊りました。お弁当屋は近隣の「マキの家」から注文したりと、「地域と一緒に」というような行事です。



次に今年度から新しい取り組みとして、「近隣の辰沼小学校の社会科見学」として 3 年生 97 名のこどもたちが 6 月 15 日に施設を見学しました。小学校は「地域にある職場」と言うテーマから、福祉について知ってほしいという先生方の希望により、施設と検討を重ね実現しました。見学した小学生たちは、トイレをみて「デパートで見たことある！でもじっくり見たことがない」と、なんとなく知っているけど、機会が無く話をする事がなかった？と言う感想でした。自主生産品を見ながら「知ってる」等と、施設のお祭りなどで楽しんだ事等も話していました。今年は楽しみです。沢山の人がきてく

れるかな？

神明福祉園では少しずつ「地域へでる」「地域で根付く」「地域との交流」と、活動の幅を広げながら「広がりを持ち施設の外にも目を向ける活動や支援」を一歩ずつ進んでいく事を目標として頑張っていきたいとおもっています。

● 新 人 職 員 紹 介



名 前：田中 雅博
所 属：足立区神明福祉園
(コスモ班)
出身地：東京都武蔵野市
趣 味：コーラス・柔道 3 段
スポーツ観戦・登山等

神明デイサービスセンター だより

デイサービスは 6 月の恒例行事、菖蒲沼公園の散策を 1 週間かけて行いました。期間中、梅雨にも関わらずお天気に恵まれ、また菖蒲も昨年より大輪の花を咲かせていたので、利



用者さんは思い思いに楽しまれていたようです。バスからの車窓も普段通所する時と違い、「ここにこんなお店が」とか「新しい店がオープンする」など車内でも和気合い合いでした。



また、講習会や個別活動も幅が広がり、自分の作品に自信を持ってきた方や、新しいジャンルのものに挑戦する方がいらつしやり、全体に活気が出てきた感じでした。これから暑くなり冷房などで体調を崩しやすい方もいらつしやいますが、デイサービスに来ている時は皆さんお元気で喋りや活動に励んでいらつしやいます。職員も皆さんに気持ち良く利用していただき、明るく楽しい場を提供できるように一層の努力をしていきたいと思ひます。

神明福祉作業所だより

去る6月7日

に佐野センターで行われた「ハート&ハート」は、天気もよく大変盛り上がりました。神明福



自慢の革製品はいかがですか！

祉作業所として沢山の利用者、ボランティアの方々が参加しました。4つのお店に別れて、それぞれ昨年度以上の売り上げを目指し頑張りました。今年度は、革製品をリニューアルしての初めての販売でしたが、ほとんど完売するくらい



炎天下の中、自転車をピカピカに磨きます！

の売れ行きでした。商品を完成させるにあたって、革製品の質の向上を目指し、沢山の人の手を買ってもらえるように心をこめてつくりました。また、炎天下の中で、革体験や自転車清掃なども汗を流しながら一所懸命行いました。喫茶店では、利用者1人ひとりが、お客さんへ「いらつしやいませ」と声をかけ接客を行っていました。今年度も充実した「ハート&ハート」になりました。

また、5月・6月には、かりんグループ(生活介護)で西新井アリオ、柴又などに行き、それぞれ楽しい時間を過ごしていました。これから、あおぞらグループ(就労継続支援B型)の外出も「見る・遊ぶ・見学・買い物」のテーマに分かれて自分たちで計画を立てています。9月の宿泊旅行に向けても現在進行中です。今後も仕事や行事が目白押しの神明福祉作業所です。

グループホームオハナだより

8月に入り暑い日が続いていますね。

気温の変化も激しく、体調管理も難しくなってきましたが、オハナのみん

なは元気に過ごしています。先日、6月25日に6月生まれのお誕生日会をしました。

2人の利用者さんのお誕生日……!! 手作りの美味しい料理やケーキに囲まれながら、利用者さんからお祝いの出し物があったり、綾瀬あかしあ園やあかしあの杜からも支援員の方が来て下さり、大盛り上がりで楽しいひとときでした。

そして、7月11日にはみんなで箱根旅行に出かけます。

今年は7人全員参加で毎日、夕食の時間などは旅行の話で盛り上がっています。

みんなで箱根の旅を満喫しながら素敵な思い出をたくさん作っていききたいと今から楽しみにしています。

これからますます暑くなっていますが、体調には充分に気を付け、元気に過ごしていきたいと思ひます。今後とも、宜しくお願いします。

あいのわ支援センターだより

あいのわ支援センターでは、6月からヘルパー派遣を開始しました。

6月の実績は、身体介護2名(13時間)、移動支援2名(10.5時間)になります。7月からは、2名の利用者(身体介護1名、重度訪問介護1名)へのヘルパー派遣も開始しています。移動支援についてはスポットでいくつか相談があり取り組みを進めています。

また、支援センターを知って貰うための説明会を5月から実施しています。それぞれに居宅支援と移動支援に対する家族の皆さんからの要望が寄せられています。また、居宅を訪問してお話をお伺いしていると、障がい者が地域で生活することの様々な困難さを目の当たりにします。皆さんの要望に対して充分に応えられる体制にはまだまだですが、要望に1つひとつ向き合いながら応えられる仕組みと体制を目指してスタッフ一同取り組みを進めています。皆さんのご協力をよろしくお願い申し上げます。



NPO法人 あふネット グループホーム 「おぐのあかり」を見学して (法人・父母の会 20 名参加)

7月7日(火)、荒川区にある重度身体障害者グループホーム「おぐのあかり」を見学させていただきました。

「おぐのあかり」は、NPO法人あふネットが運営するグループホームで、荒川遊園地(都電)から歩いて5分、商店街の奥にあります。

NPO法人あふネットは、「あふネットサポートセンター」(ホームヘルパー・ガイドヘルパー派遣)の事業も行っており、そのほかに、障害者と地域の人たちのための交流コーナー(事務所と兼用)、障害者ITサポートセンター、バリアフリーに関する企画・提案、福祉・バリアフリー等に関する講演会・シンポジウムを開催して活動しています。

「おぐのあかり」は、誰もが住みなれた街で暮らせるようにとの思いから、重度身体障害者グループホーム(都型)として、平成18年に開設されました。2・3階がグループホーム(定員は5名)で、居室は6畳程度、共有スペースにトイレ、お風呂、台所、食堂等が設けられている。見学時には、入居者の皆さんは通所されており不在ではありませんでしたが、スタッフの皆さんが洗濯やお風呂の準備に慌ただしく働いていました。

1階は、デイホーム、タイムケアルームになっています。入浴設備を設け入浴サービスも行っています。窓が大きなガラス張りになっているため、往来する方が中からもよく見えます。「活動の様子が地域から見えるため、近所の人たちが気軽に立ち寄って声を掛けてくれるようになってきたんですよ。ご近所さんとの関係も上手くいっています。」と理事長さんが話されていました。

介護職員の確保についてはなかなか難しいとのこと、資格がないスタッフ(アルバイト)を採用し、意欲のある人材から資格を取得していただいている。(法人として補助)

また、法人の行っているそれぞれのサービスを組み合わせ、スタッフ(常勤、パート)の働く時間の確保と効率的なサービスが提供されています。

今回のグループホーム「おぐのあかり」の見学と、「NPO法人あふネット」の取り組みは障がいのある人が街の中に自然に溶け込んで、少しでも自分の望む生活に近づいていただけるよう配慮している点、あいの福祉会として、今後の障害者の地域生活支援、グループホームの取り組みにいくつかのヒントがあったように思います。詳しくは、NPO法人あふネットに。

<http://afnet.ne.jp/index.htm>



2階グループホームの台所

グループホーム玄関



平成21年度 後援会総会開催

6月9日(火) 午前10時30分～12時30分

(足立あかしあ園3階会議室)

秋山後援会会長のご挨拶をいただき、議案の審議に入りました。

平成20年度の事業報告、決算報告、監査報告が承認され、平成21年度の役員案、事業計画、予算案につきましても、満場一致で了承されました。

第2部では、昨年の寄付者、団体の皆様に感謝状を贈呈させていただきました。続いて第3部に入り、記念講演は、毎年福祉から離れた演題でお願いしておりますが、今年度は、元福祉部長の時に世話になりました坂田道夫氏の講演で、「今までの足立区、これからの足立区」と題してお話いただきました。

後援会総会記念講演

演題「今までの足立区・これからの足立区」

講師 足立区政策経営部新都心構想推進室長 坂田 道夫氏



今から約40年程前の1965年から1974年間を、成長の時代。1975年から1984年をゼロサム(プラスマイナスゼロ)社会の時代。1985年から1988年を安定成長の時代。1987年から1990年がバブルの時代。1991年から2002年がバブル崩壊と失われた10年の時代。2003年から2007年が実感なき好況の時代。2008年からはリーマンショックに代表されるように、わずか6か月で変わってしまう世界と日本の時代。という7つの大きな時代背景の中からその年代を象徴する主な出来事にスポットをあてながら、足立区の昔と今をわかりやすく解説されました。具体的に例を引いた各年代のお話は、まさにその年代の中で育ってきた私たちにだけに素直に納得でき、また、ユーモアに豊んだ坂田先生の話術に、すっかり聞き入っていました。

かつて足立区は、23区の中でも陸の孤島と呼ばれる時代がありました。多くの方々も、ふり返ってみると納得されることがあるのではないのでしょうか。しかし今や区の重点プロジェクト推進戦略の地道な活動の元に、教育、健康、福祉、雇用、交通、環境災害等に大きな展開がみられ結果、地域の活性化が大きく進み、急速に発展しつつある区として注目を集めているそうです。現に五大学の誘致や大型商業店舗の進出、新交通システムの導入など目に見えて進化する区の様子に足立区民としてこんなうれしいことはありませんね。

最後に、街の土台作りは「割れ窓をなくし美しい窓を増やす」、つまり街の美化と清潔が犯罪抑止につながり、それらが保たれることにより街が大きく発展するというお話は強い説得力をもって胸にひびきました。

足立あかしあ園 改修

平成6年9月に開設した足立あかしあ園は、当初38名の定員でスタートしました。以後40人、50人そして現在の58名まで増員を図ってきました。

現在、利用者が55名となり手狭な状況で安全面からも課題が生じていました。今後の利用者増を含め、施設改修を検討し足立区より補助金をいただき7月1日着工となりました。

工期は7月1日から11月30日までの5ヶ月間となります。主に3階の改修を行います。施設3階南側のテラス部分に事務室を移設し、会議室の拡張と作業室を設けます。作業室はこれまでの3箇所から4箇所となり定数増を図ることができます。

通所利用者をはじめ近隣や来所の方々にご迷惑をおかけしますがよろしくお願いします。

■工事内容

- I期… 新事務室の設置工事
7月1日～8月7日
- II期… 会議室・作業室(3階)の改修
8月8日～10月9日
- III期… 食堂の拡張・トイレの改修(2階)
10月10日～11月6日
- IV期… 作業室・トイレの改修(1階)
11月7日～11月30日



改修後、平成22年4月1日より定員を60名に増員を行います。安心・安全はもとより、ハード面の改善を含めサービスの向上を図ります。

後援会だより

（平成 21 年 5 月・6 月分）敬称略、順不同

◎特別会員（1口1万円）

山野正雄、平田伊三郎、大川博司、石鍋一郎、谷古宇彰、長島広侖、大野守幸
鴨下令子（2口）、中田貢弘、大井勉、峯岸茂隆、中里俊夫、神代和幸
清水正雄、川名安之介、稲場和子、綾瀬あかしあ園保護者会（44口）

神明福祉園父母の会（12口）、谷在家福祉園家族会（5口）

神明福祉作業所保護者会（3口）、竹の塚あかしあの杜のぞみ家族会（28口）

◎団体会員（1口5000円）

加平町会（2口）、足立成和信用金庫青井支店（2口）

㈱泰成工業所（6口）、青井三丁目第一自治会

綾瀬五丁目商店街振興組合、㈱ソーリン、青井三丁目中央自治会（2口）

柳原商店街振興組合、㈱マルゼン、㈱サンベルクス（6口）

栗島幼稚園（2口）

◎一般会員（1口3000円以上）

足立西加平郵便局長、平田幹明、藤本とめ子、尾身友善、須賀久雄

平沢清壽、平田照男、須藤隆二、佐々木寛、鴨下宏治、渡辺杏子

金成常子、沢木綾子、小川英二、平田大作、平田忠彦、飯塚栄、平田利夫

西村文雄、田林恵子、小原光男、赤羽敏司、山田智恵子、下川薫、三田昭夫

岩澤明美、岸本知鶴子、平田敏光、下川薫、羽子田はるみ

綾瀬あかしあ園保護者会（3口）

◎寄付者

原歯科医院、原龍馬、秋山啓司、荒井修、保野幸夫、田上弘治、渡辺和彦

足立区肢体不自由児者父母の会、神明福祉作業所家族会、竹の塚あかしあの杜

きずな家族会、竹の塚あかしあの杜のぞみ家族会

★今年も多くの皆様からの後援会へのご加入、ご寄付 有り難うございました。今後どうぞよろしくお願い致します。★

竹の塚あかしあの杜「なごみ」

（平成 21 年 5 月～6 月）

短期入所事業利用状況

延べ利用人数	59名	内児童	7名
延べ利用日数	180泊	内児童	35泊

編集後記

暑中お見舞い申し上げます。

蒸し暑くて寝苦しい夜が続く毎日、たまには涼を求めて鎌倉の森に出かけてみませんか。

手つかずの自然美が残る鎌倉の三大緑地の1つ台峯、盛夏の森は夏草が茂りむせ返るよう、とても感動的です。（実はこの森は大規模な住宅開発計画が進行していたのですが、住民の保全運動により広大な緑の森が守られたのです。）

さて、7月7日にNPO法人あふネットが運営する荒川区の「おぐのあかり」へ施設見学に行ってきました。荒川遊園地から数分の場所に建つ3階建ての建物で、1階はタイムケア、2・3階はグループホームで、男性2名、女性3名の方が生活しています。

あふネットの理事長のお話はとても感動的でした。「働く人にとっても利用する人にとってもベストになるように」という理事長の思い、学ぶことが沢山ありました。

①緊急時でもタイムケア・ヘルパー派遣を電話1本で利用ができます。（送迎付きです。）

②グループホームの入居者の定期健診、緊急入院等を送迎付きでヘルパーが支援してくれそうです。（人件費等の親の負担はない）

③通所施設の保護者会にもヘルパーが出席します。

④グループホームの利用者が医療的ケアを必要となっても、生活を支援していききたい。

⑤ヘルパーは無資格、無経験でも人柄と健康が大切。「おぐのあかり」の支援を当たり前と考えることが大切。資格、経験は後で付けてくるものです。

「今後はナイトケア、ショートステイの利用も可能にしていきたい。」と夢を語ってくれました。

では、「あいのお福祉会」の現状はどうでしょうか？支援センターが開設され、

「綾瀬あかしあ園」で入浴サービスが送迎付きで開始しました。日々の介護が少し軽減

され、大変喜ばれています。しかし居宅生活で一番必要な、緊急時のショートステイの

支援が困難で、利用できない（重度の知的障がい者、医療的ケアを必要とする）利用者

はどうしたらよいのでしょうか？障害の重い利用者のショートステイを可能にする手だ

てはないのでしょうか？

台峯の住民が大切なものを守ろうとしたことで保全運動が実現したように、利用者にとって何が大切かと、今一度みんなで考えていきたいと思います。

●後援会加入のおねがい●

当法人の事業及び運営施設の発展を願い、財政的な援助をしていくことを主として後援会活動を行っております。

一人でも多くの方々に賛同いただき、後援会への加入ご支援をお願い致します。

申し込み・お問合せは後援会事務局 電話（3849）1188まで